

奥州地方における林間畑わさび試験地の設定支援

県南広域振興局林務部（以下「県南局林務部」という。）では、令和元年度から奥州地方の新たな特用林産物として、林間畑わさびを推奨し、新規生産者の確保や定着を図るために普及指導に取り組んできました。

その一環として、奥州市が主体となって進めている試験地の設定を支援しており、令和2年10月に3箇所目となる試験地を設定したので報告します。

1 はじめに

奥州市は、林間畑わさびを反収が良く高収益が期待できる新たな特用林産物と位置づけ、令和元年度から、畑わさびの先進地研修や栽培に向けた基本研修等に参加し、栽培技術の習得を図るとともに新規参入者の確保に向けて取り組んできました。

また、奥州市内における生育特性を把握するために、令和元年度に市内の米里地内に2箇所の試験地を設定しましたが、令和2年度も米里地内に試験地を設定する運びとなりました。岩手県林業普及指導協力員（以下「指導協力員」という。）の石関啓志氏に講師を依頼し、植え付けを実施しました。

2 植え付け作業の概要

令和2年10月28日、石関指導協力員と奥州市職員6名、遠野農林振興センター（以下「遠野センター」という。）職員1名、県南局林務部職員3名の計11名で植え付け作業を行いました。

事前に石関指導協力員から、①根は土の中で張るように置く。②生長点（次に芽が出てくる部分）には土を被せない。③被せた土は

軽く抑える程度にすることを留意点として指導を受け、作業に取り掛かりました。

民有林の一角約160平方メートルの区域に、堆肥100キログラム及び肥料12袋を播き、遠野わさび公社から購入した苗600本を45センチメートル間隔に植え付けました。

植え付け場所には、広葉樹が何本か生育していましたが、土を耕起するため一旦伐採し、生長が早いハンノキ等を早めに植栽することで、強い日差しを嫌うわさびの日なた対策を行うこととしております。



【植え付け後の状況】

3 今後の取組

令和2年6月に遠野センターの主催で開催された林間畑わさび栽培講習会（初心者向け）には奥州市内から20名（うち市職員4名）の参加がありました。

今後は、奥州市が設定した3試験地の生育調査データ結果を活用し、上記栽培講習会に参加した16名やその他の生産希望者に働きかけながら、新規参入者の確保に向け普及指導を行うとともに、引き続き、奥州市と県南局林務部が一体となり、新たな収入が期待できる特用林産物として取組を推進していきます。